

第40回

第6章 現代の諸課題と倫理

福祉社会と倫理

今回学ぶこと

私たちは多様な人たちが生きる社会に生きています。多様性を尊重し、「誰一人取り残さない」社会を作るにはどうすればいいでしょうか。ケアの倫理やケアをめぐる労働、法制度について学びつつ、多様性と包摂を実現する社会制度のありかたをどのように構想すればいいのかについて考えてみたいと思います。



講師

千田有紀

■ 人間や社会の多様性 ■

私たちの社会には、すでにさまざまな人たちが存在しています。また私たちの生活は制度によって規定されています。このようなことを考えると、私たちの社会の多様性を保障するためには、それを支えるための柔軟な制度が不可欠です。

現在の日本社会は、少子高齢社会に突入していますが、これは未婚化傾向によっても支えられています。ライフスタイルの多様性を認めつつ、子育て世代に対応するためにはまず、託児所や保育施設を増やす、育児休業制度を充実させるなどの政策が不可欠です。また、また介護離職を防ぐためには、介護保険制度や介護休業の制度があります。どのようなライフスタイルをとるにせよ、ケアの問題をどのように解決するかということは、避けて通れない問題となっています。

■ ケアの倫理 ■

ケアは私たちが生きていく際に不可欠な営みです。育児や老人の介護のみならず、病気や障がいがある人がいる場合の看護・介助なども全部ケアであり、これまで家族で担われてきました。

キャロル・ギリガンは、法を重視し、権利や正義に基づいて思考する近代的な個人を中心とした倫理の体系に対して、人間関係に着目した「もうひとつの声」である「ケアの倫理」を説きました。私たちの社会は、ケアの共同性に着目し、社会全体で担っていくこともまた考えなければなりません。

ケアは、気遣いや心遣いのみならず、労働としての側面もあります。ケアワーカーが、十分な対価を得ていないという問題、にもかかわらず、その多くが女性、そして近年は外国人労働者によって担われているという問題があります。

■ ■ 共生の在り方 ■ ■

私たちが多くの人たちと、共生していくためには、何をしたらいいのでしょうか。2015年の国連総会で採択された「我々の世界を変革する 持続可能な開発のための2030アジェンダ」の一部にSDGsがあります。SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、17の目標と、169のターゲットがあります。その目標の最初の5つは、貧困をなくし、飢餓をゼロにし、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、ジェンダー平等を実現しようといったものです。ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包摂）が大切にされています。性別や性自認、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、人種や民族、国籍などさまざまな多様な属性を持つ人たちが、誰一人取り残されることなく包摂される福祉社会をめざされなくてはなりません。



このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。